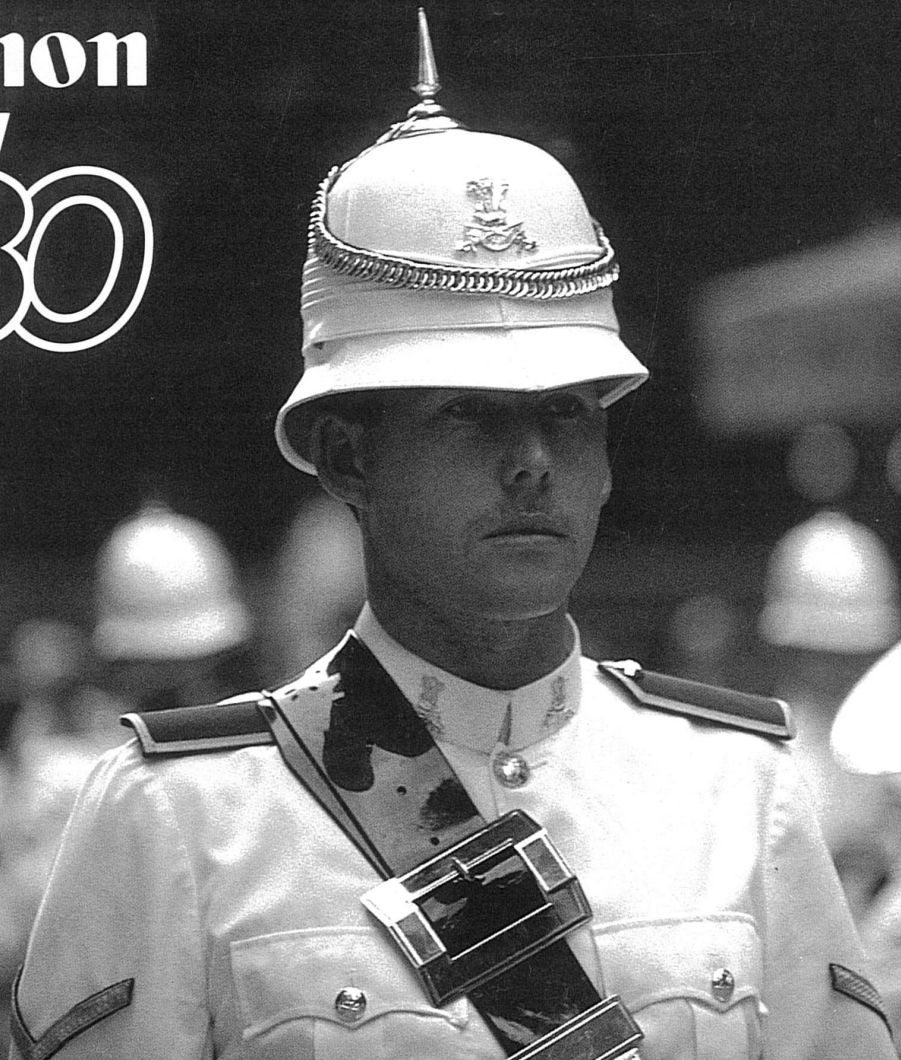


# Canon T80



**J**

日本製

使用説明書



## 各部名称



☆印は50mmレンズにはありません。

## ご挨拶

キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。現代は映像情報時代といわれています。これは一枚の写真が、どんなに沢山の言葉よりもまた、どんな言葉よりも、より確実に多くの情報を与えてくれるからに他ありません。毎日、新聞、雑誌、ポスター、TVなどからあふれ出てくるおびただしい写真も撮影技法で分類するといくつかに分けることができます。

キヤノンはこれらの撮影技法を分類してキヤノンT80にピクトグラフ（絵文字）として集約しまし

た。従って、これまでのようなシャッターと絞りの組み合わせにわずらわされることなく、簡単に多彩な写真表現を楽しむことができます。しかもAF（オートフォーカス）をはじめとした自動化を達成していますので、これまでは高度な撮影テクニックと豊富な知識を必要とした写真を、どなたでも簡単に撮ることができるようになりました。ご使用にあたっては使用説明書を良くお読みいただき、ご理解のうえ正しくお取り扱いくださるようお願い致します。

## 目次（基本編）

1 レンズを取り付けます	P. 6
2 レンズを「ONE SHOT」に合わせます	P. 8
3 電池を入れます	P. 8
4 メインスイッチをAにします	P.10
5 電池をチェックします	P.11
6 フィルム感度をカメラにセットします	P.12
7 フィルムを入れます	P.13
8 表示パネルにピクトグラフ(絵文字)を セットします	P.15
9 カメラを構えます	P.16
10 ピントを合わせます	P.17
11 露出を確認します	P.18
12 シャッターボタンを押して撮影します	P.18
13 フィルムを巻き戻します	P.19
★セルフタイマー撮影	P.20
★専用ストロボによる自動フラッシュ撮影	P.22
★付属品の扱いについて	P.23

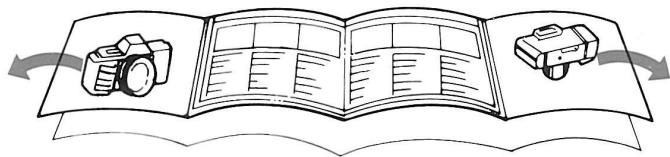
各部機構と応用編(P.25～P.58)

# 基本編

この使用説明書は基本編と応用編から構成されています。

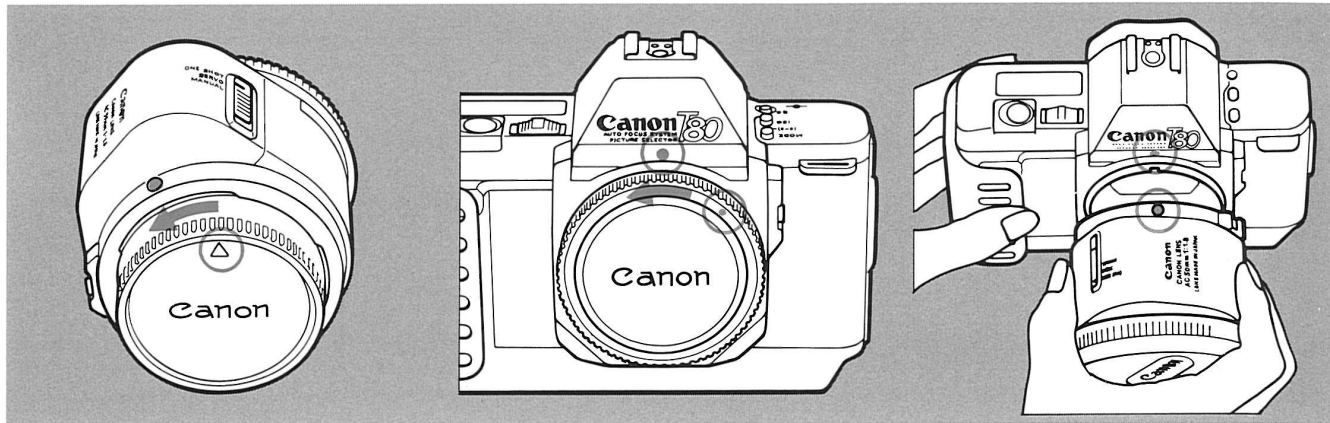
「基本編」にはカメラの基本的な取り扱い操作を、また「応用編」には幅広い撮影テクニックを楽しんでいただくための情報を盛り込んでいます。

なお、キヤノンT80を十分に楽しんでいただくためには、別冊の「キヤノンT80、イメージハンティング」を併せてお読みください。



この使用説明書は図のように開いてご覧ください。

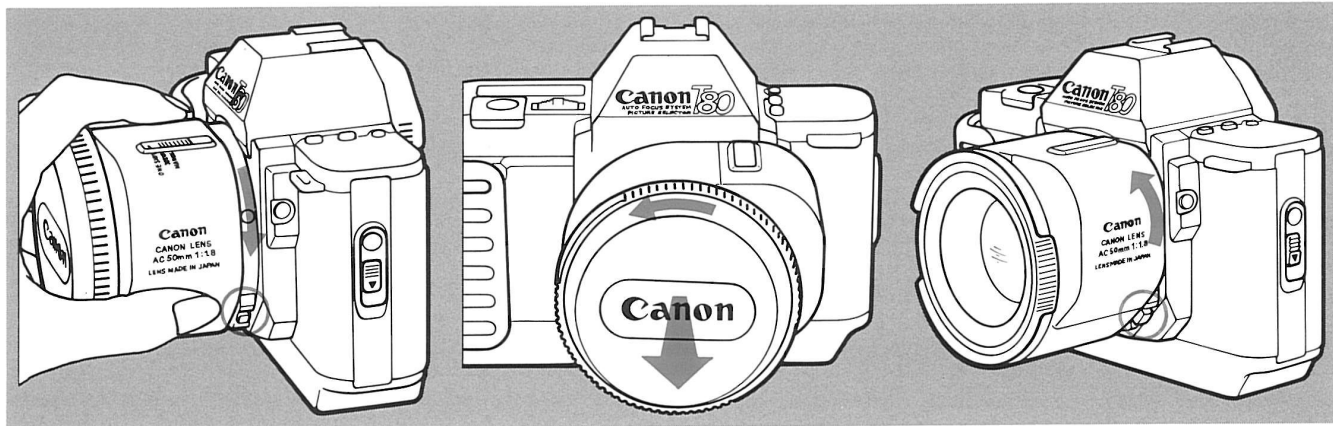
# 1. レンズを取り付けます



1) レンズの底蓋を回して外します。取り付けるときはレンズ側の赤指標と底蓋の▲印を合わせて回します。

2) ボディキャップを回して外します。取り付けるときはキャップ側とボディ側の赤指標を合わせて、キャップを回します。

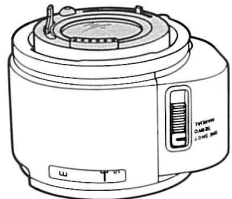
3) レンズとカメラの赤指標を合わせて、レンズを押し付けます。



4) レンズ全体を完全に止まるまで回します。完全に取り付くとカチッという取り付け音と同時に、レンズ取り外しボタンが飛び出ます。

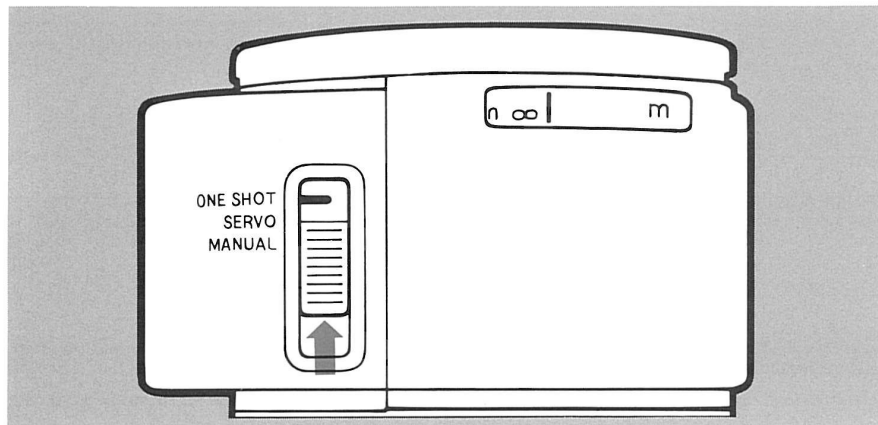
5) レンズキャップを回して外します。

レンズを外すときは、レンズ取り外しボタンを押しながら、取り付けのときと反対に回します。



● キヤノンACレンズは各種信号ピンを持っています。レンズを取り外したときは、信号ピンやレンズ面を傷ついたり汚さないように、取り付け面を上向きにして置いてください。特に取り付け部のAF連動ピンはオートフォーカスのための電気信号ピンですので、ご注意ください。

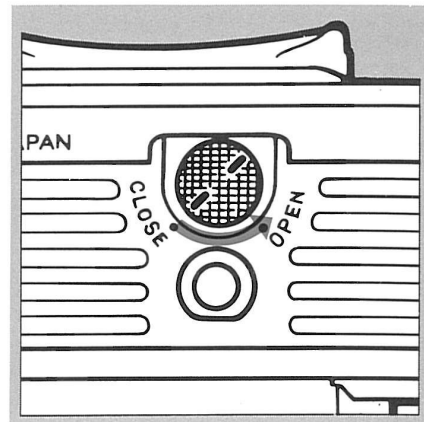
## 2. レンズを「ONE SHOT」に合わせます



A Fモードスイッチをスライドさせて「ONE SHOT」に合わせます。A FモードスイッチのA Fとは、自動ピント合わせ（オートフォーカス・Auto Focus）の略です。

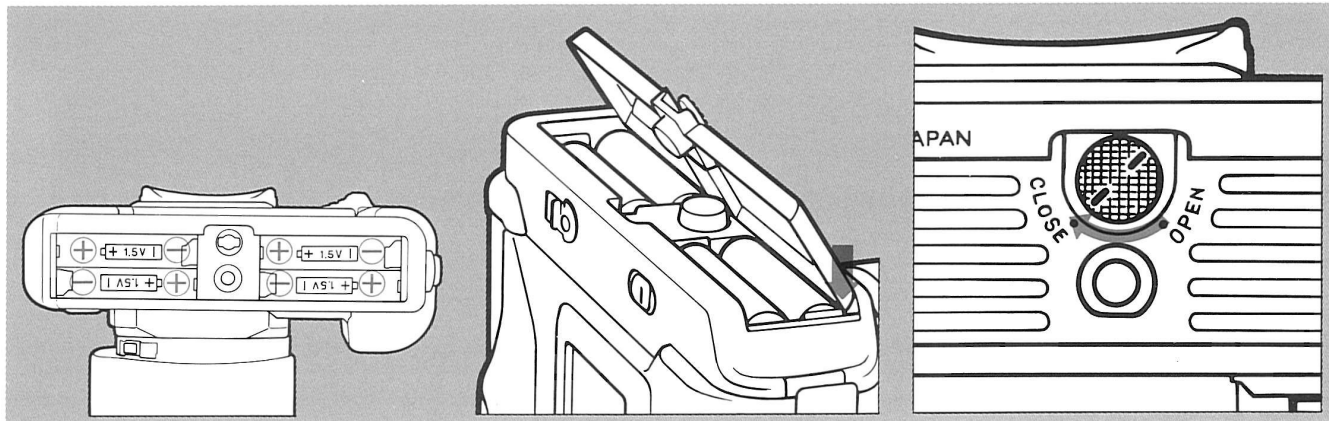
- A Fモードスイッチの詳しいことはP. 37 をご覧ください。
- キヤノンT80はFDレンズも使用できます。ただし、絞りリングはAマークにセット、ピント合わせは手動となります。

## 3. 電池を入れます



1) 電池室開閉ノブを矢印方向に完全に回して開けます。





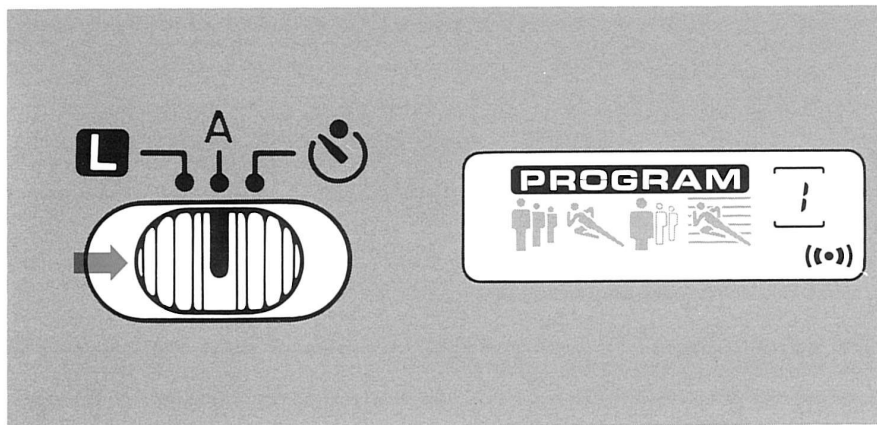
2) 電池室の図に従い+-の向きを間違えないようにして電池を入れてください。向きを間違えるとカメラは作動しません。

3) 電池室蓋を取り付けるときは、図のように蓋の一方を差し込んだ後に、押し付けます。

4) 電池室蓋の開閉ノブを「OPEN」から「CLOSE」に完全に回します。なお、完全に回さないとカメラは作動しません。



- このカメラには必要な電池電圧がないと、動かない安全回路が組み込まれています。
- 電池は、4本とも同一銘柄で新品の単4形アルカリマンガン電池をお使いください。
- カメラを長期間使用しないときは電池を抜き取って保管してください。

## 4. メインスイッチをAにします



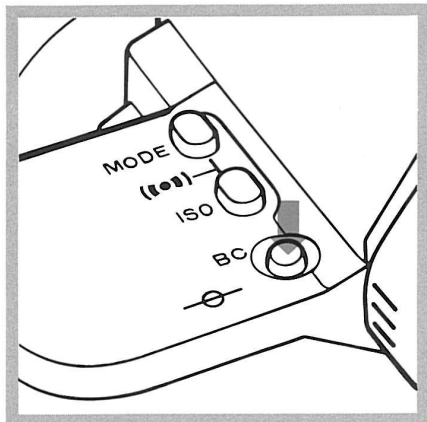
カメラ背面の下にあるメインスイッチをAにすると、表示パネルに撮影モードが濃く表示されますので電源が入ったことがわかります。

### 〈メインスイッチの位置〉

- : カメラを使用しないときは、メインスイッチをLにして不用意な電池消耗を防いでください。
- : セルフタイマー撮影のセット位置です。（P.20 参照）

- 表示がでないときは、電池の向きが正しいか、または電池室開閉ノブが完全に閉じているかを調べてください。

## 5. 電池をチェックします



- 1) バッテリーチェックボタン (BCボタン) を押して、
- 2) 表示パネルのバッテリーチェックマークで確認します。

● 電池についての詳しいことは、  
P. 26 をご覧ください。

電池電圧はOKです。

PROGRAM



PROGRAM



PROGRAM



(点減)

PROGRAM

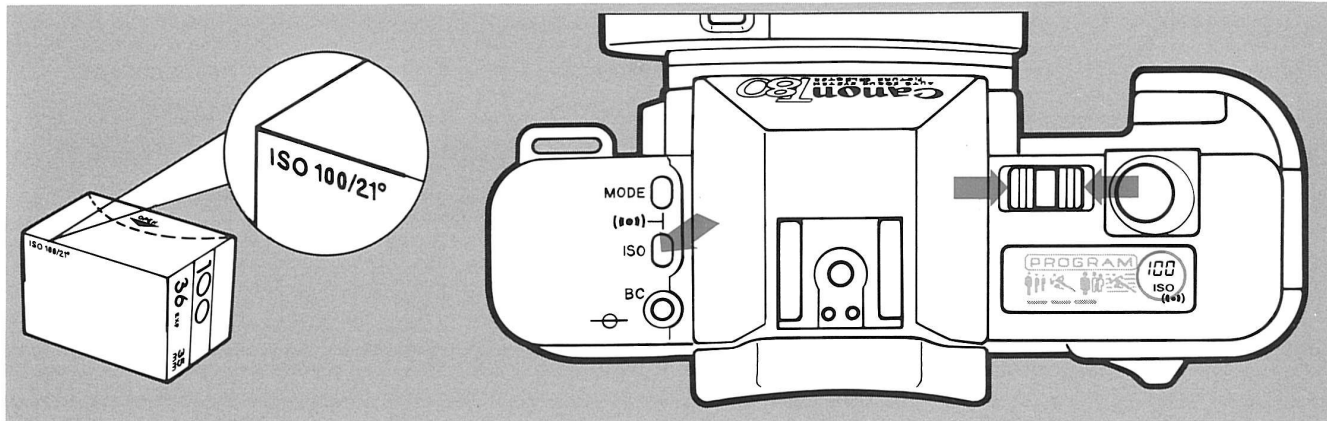


(表示なし)

新品電池に交換して  
ください。

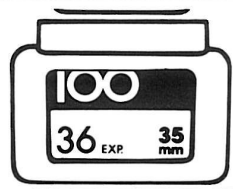
● T80はバッテリーチェックマークが点減または無表示となっても、  
シャッターが切れば写真は適正露出となります。

## 6. フィルム感度をカメラにセットします



フィルムの外箱に表示してある、ISO数字をカメラに表示します。

- 撮影途中でフィルム感度を確認したいときは、フィルム感度ボタンを押してください。



- カメラ裏蓋のメモホルダーは、フィルム包装箱の名称表示部分を切り取って差し込めるようになっています。ご利用ください。

- 1) フィルム感度ボタンを押しながら、
- 2) シフトレバーを押してフィルム感度数字を表示パネルにセットします。

左に押すと感度数字が小さくなり、右に押すと逆に大きくなります。

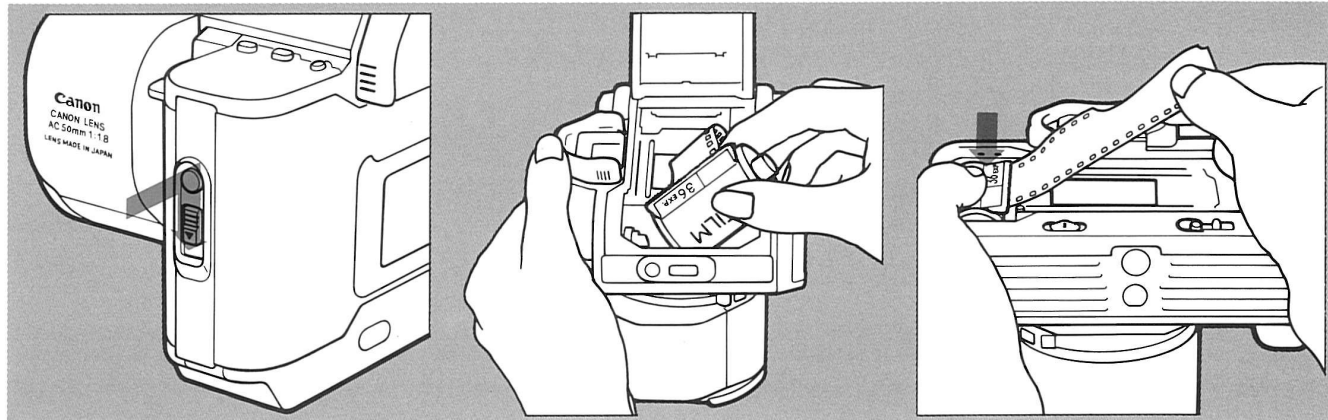
使用できるフィルム感度は次のようになります。

(シフトレバーを右に押すと)----→


12 16 20 25 32 40 50 64  
80 100 125 160 200 250  
320 400 500 640 800  
1000 1250 1600

←----(シフトレバーを左に押すと)

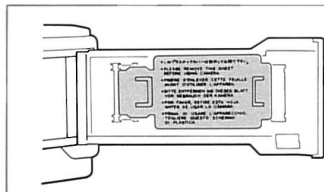
## 7. フィルムを入れます



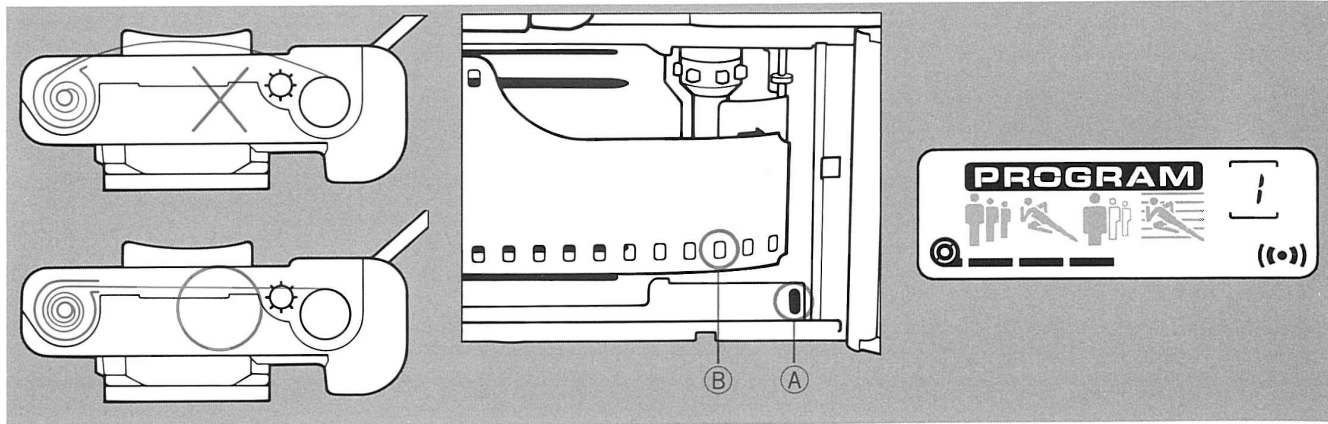
1) 裏蓋開放安全ロックボタンを指で押し付け、さらにそのまま裏蓋開放レバーを押し下げるとすれば裏蓋が開きます。

2) 図のようにフィルムは先端を斜めにして入れます。フィルムを入れると表示パネルに  (フィルム在否確認マーク) が出ます。

3) カメラを倒さないように、図のように左手でカメラとフィルムを押さえながら右手でフィルムを伸ばします。



- 初めてカメラを使用するときは、フィルムを入れる前に図の位置についているプラスチックカバーを外して捨ててください。
- シャッター幕は非常に高い精度を必要とするため、絶対に手を触れないでください。



4) フィルムがたるまないようにフィルム容器の出口を指で押し付けます。

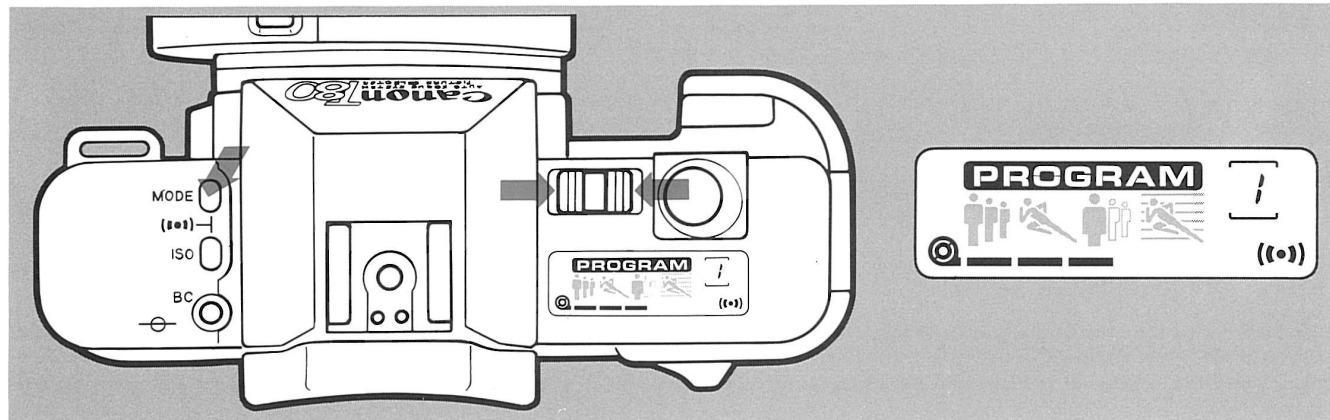
5) ① フィルム先端がオレンジマークに合っていること(①位置), ② スプロケット(歯車)にフィルム of 穴がかかっていることを確かめ(②位置), 裏蓋を押しつけて閉じます。

6) 裏蓋を確実に閉じるとカメラは自動的にフィルムを送り, “1” と3本のフィルム給送マーク(バッテリーチェックマークを兼用)を表示して止まります。

フィルムが正しく送られているときは, フィルム給送マークが順次現れてフィルム給送の動きを示します。

- フィルム給送マークがフィルム給送中の動きをしないときは, フィルムを正しく入れ直してください。
- 一枚目セットのためのフィルム自動空送り中は, 表示パネルにセットしたフィルム感度数字が現れますので, フィルム感度が再確認できます。

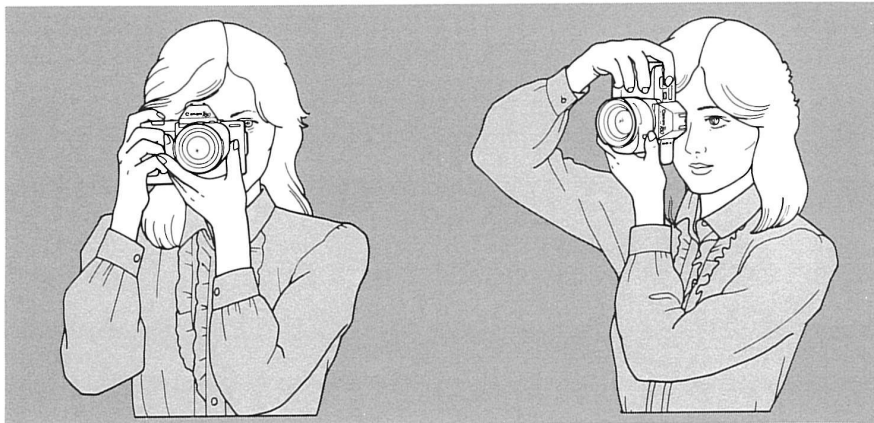
## 8. 表示パネルにピクトグラフ(絵文字)をセットします



カメラの撮影モード選択ボタンを押したまま、シフトレバーを押してプログラム (PROGRAM) にします。

- ピクトグラフ (PICTOGRAPH)・・・絵文字のこと。ここでは写真表現テクニックをシンボル化したマークのこと。
- このカメラはピクトグラフの選択により、色々な写真表現が楽しめます。従ってピクトグラフはどのモードにセットしても構いませんが、ここでは便宜上、PROGRAMにセットします。なおピクトグラフについては、P. 29～32および別冊「キャノンT80イメージハンティング」をご覧ください。

## 9. カメラを構えます



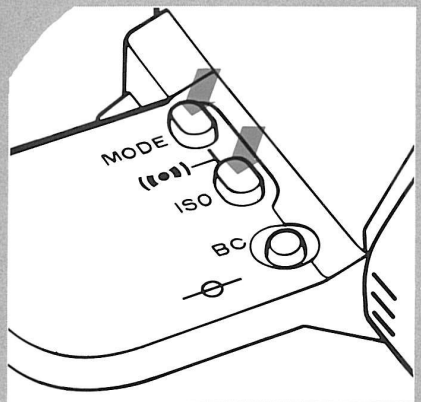
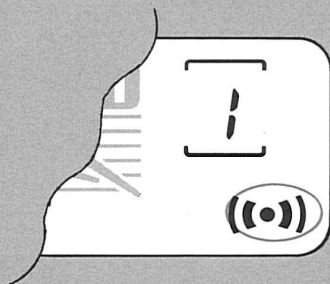
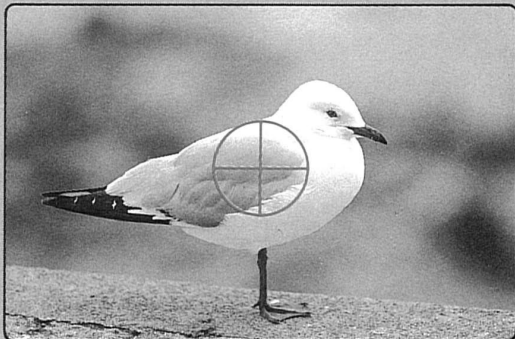
シャープな写真を撮るために、カメラが動かないように構えてください。

- 1) カメラを手のひらで支えるように持ちます。
- 2) カメラを持つ手のひじを軽く体に付けます。
- 3) カメラを額に付けて、ファインダーをのぞきます。
- 4) 両足をそろえないで片足を軽く踏み出して体を安定させます。

- 撮影のときカメラが動くことを「手振れ」と呼びます。手振れ写真は全体がボケた写真となり、シャープに写っているところがありません。
- 構え方に決まった方法はありません。ご自分に合った方法で行ってください。構え方の練習は鏡の前で行うと効果的です。なお、実際に撮影するときは、建物・椅子・テーブル等を支えとするのもひとつの方法です。



## 10. ピントを合わせます



1) ファインダーをのぞいて「測距範囲の中央」を撮りたいものに合わせます。

2) 軽くシャッターボタンを押して、ピントを合わせます。

ピントの合ったところでレンズの動きが止まります。

### 〈合焦音について〉

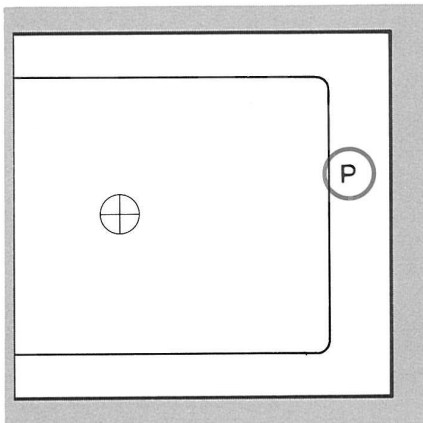
表示パネルの右角に合焦音セットマーク ((●)) を表示しておけば、信号音でピントの合ったことがわかります。

### 〈合焦音セットマークの表示〉

合焦音セットマークが現れるまで撮影モード選択ボタンとフィルム感度ボタンの両方を、押し続けます。消すときも同じ操作です。必要に応じてご使用ください。

- ピント合わせができないときは、レンズが前後に動いたままとなりますので、手動ピント合わせをしてください。(P.40参照)なお、P.44のオートフォーカスの苦手な被写体の項も参照してください。

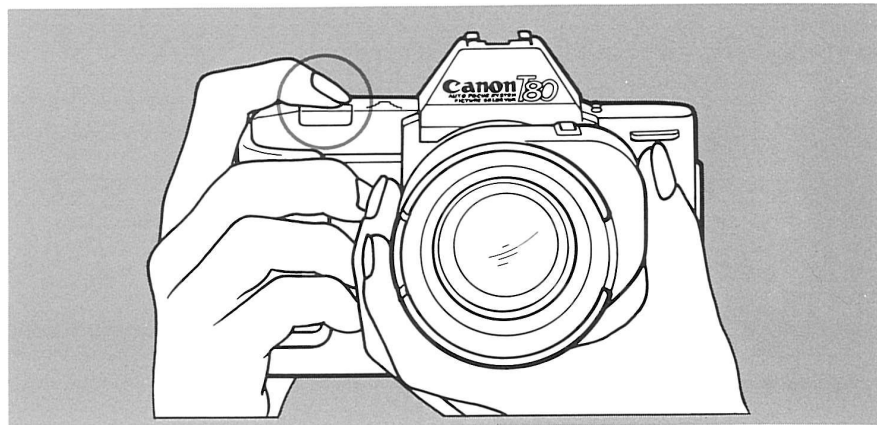
## 11. 露出を確認します



シャッターボタンを軽く押したままにして、ファインダー内のPマークを確認します。点灯していれば撮影OKです。

- 明る過ぎ、暗過ぎ、または手振れ写真となるようなときは、Pのマークが点滅します。(P.34参照)
- Pマークの点滅は3種類あり、その違いはカメラを明るい光源に向けて、レンズを手でおおったり離したりするとわかります。

## 12. シャッターボタンを押して撮影します

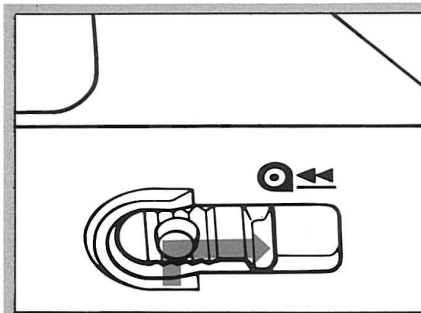


シャッターボタンを押すときは、シャッターボタンに指をのせた状態から、静かに指の腹で押します。一気に押しと手振れとなることがあります。

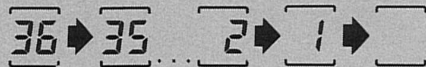
### ★一枚撮りと連続撮影

シャッターボタンを押して速やかに指を離せば一枚撮り、押し続けられれば連続撮影となります。

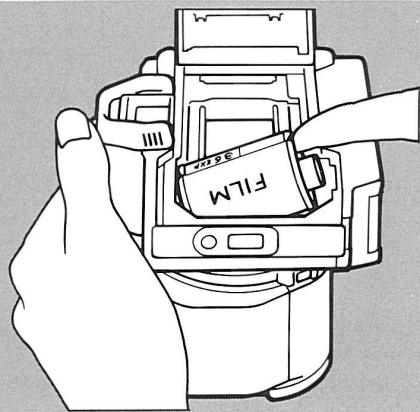
## 13. フィルムを巻き戻します



(フィルム枚数逆算)



(巻き戻し動作)




フィルムが終わると電子音が4秒間鳴って、フィルムが終わったことを知らせます。また電子音のあと、表示パネルではフィルムを巻き戻すまで撮影枚数と、フィルム給送マークが点滅を続けます。

1) 巻き戻しロックボタンを押しながら、巻き戻しスイッチをスライドさせます。

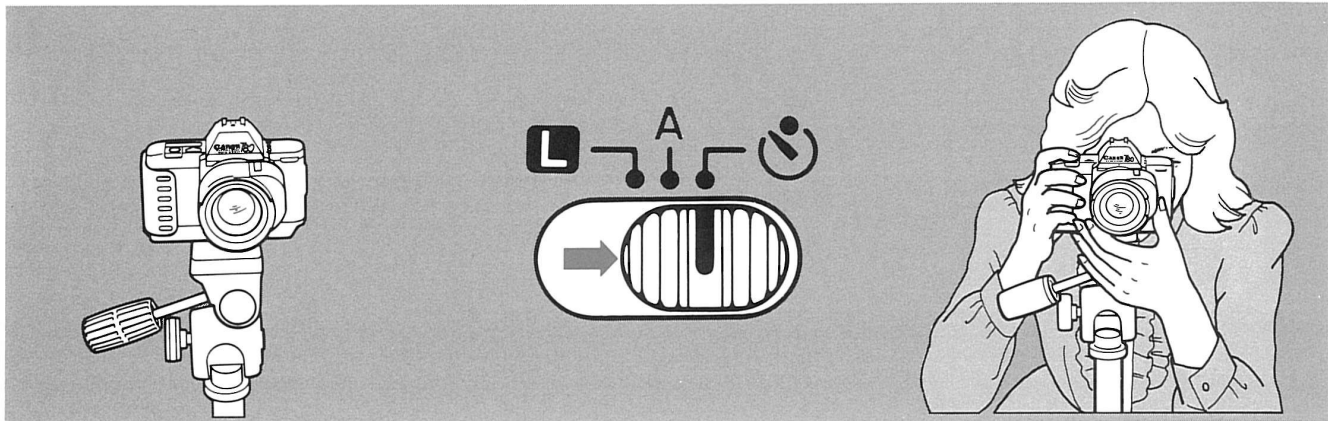
2) フィルム給送マークとフィルム枚数表示が逆算して、巻き戻しが始まったことがわかります。巻き戻しが始まれば、指を離して構いません。

巻き戻しが終わると自動停止します。

3)  (フィルム在否確認マーク)が点滅を続けますので、裏蓋を開けシャッター幕に触れないようにしてフィルムを取り出します。裏蓋を開けるまでフィルム在否確認マークは点滅を続けます。

- 自動停止直前に1回巻き上げ作動が行われます。

## ★セルフタイマー撮影



自分自身を含めた記念撮影をする  
ときなどに使用します。  
三脚を利用してカメラを固定して  
ください。

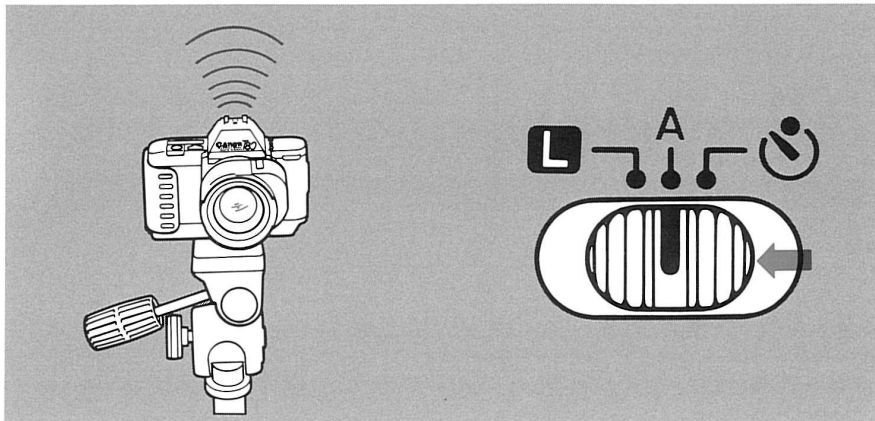
1) メインスイッチをセルフタイ  
マーマーク(🕒)位置に合わせます。

2) ファインダーをのぞきながら、  
軽くシャッターボタンを押してピ  
ントを合わせます。

3) 露出を確認した後、シャッタ  
ーボタンを押します。シャッター  
ボタンを押すと、表示パネルは時  
間(秒)を10, 9, 8, …, 2, 1と  
逆算します。

- ピントと露出はシャッターボタ  
ンを押した瞬間に決まりますの  
で、カメラの前に立ってシャッ  
ターボタンを押さないでくださ  
い。

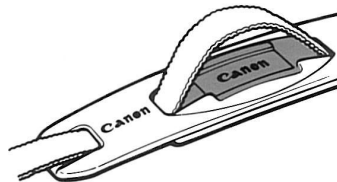
- セルフタイマー撮影を途中で止  
めたいときは、バッテリーチェ  
ックボタンを押すか、メインスイ  
ッチをセルフタイマー位置から  
外してください。



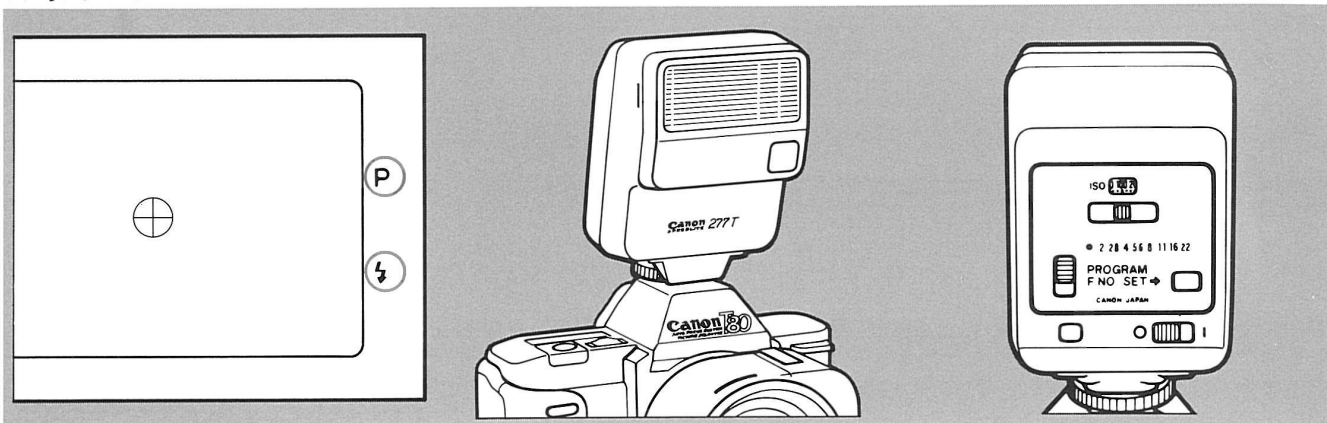
4) 10秒間の電子音の後に撮影が行われます。なお、撮影2秒前になると電子音が速くなります。電子音は合焦音マークに関係なく鳴ります。

5) セルフタイマー撮影終了後は、メインスイッチをセルフタイマー位置から外してください。そのままにすると次の撮影もセルフタイマー撮影となります。

- ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すときは、逆入光を防止するためにストラップ肩当てからファインダーカバーを外して、図のように接眼部に取り付けてください。



## ★専用ストロボによる自動フラッシュ撮影

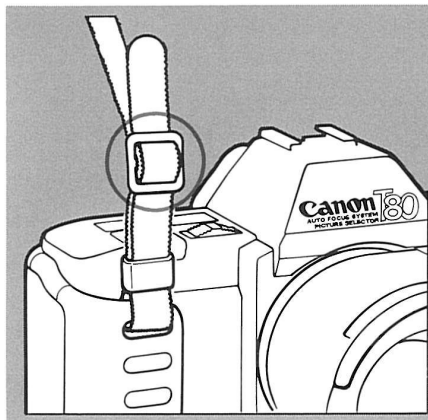


暗い所では、専用ストロボ・キャノンスピードライト277T，244Tを使ったフラッシュ撮影をおすすめします。日中の一般撮影と同じ操作でフラッシュ撮影ができます。シャッターボタンを軽く押して、ファインダー内にPと⚡マークが点灯すれば撮影OKです。

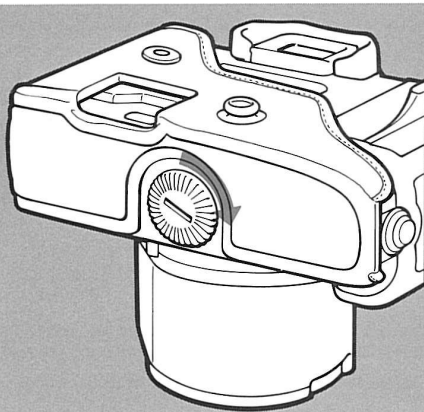
(X同調スピードは1/90秒)

- キャノンスピードライト277Tは、暗い場所だけでなく、日中の補助光としても使用できる便利なストロボです。
- 自動ピント合わせのできない暗いところでは、手動ピント合わせとなります。
- 他社カメラ専用とされているフラッシュ（一般にホットシューに複数の接点を持つ）およびフラッシュ用付属品を使用すると、カメラが正常機能を発揮しないことや、故障の原因となることがありますのでご注意ください。
- 詳しくはキャノンスピードライト277Tまたは244Tの使用説明書をご覧ください。

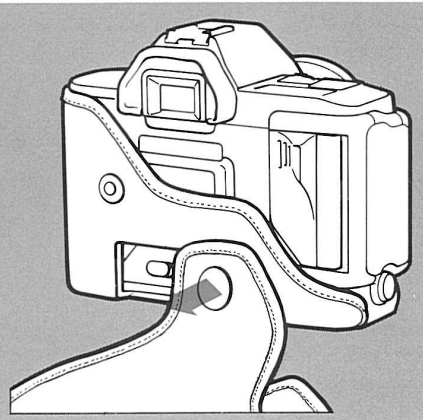
## ★付属品の扱いについて



ストラップ（吊りひも）先端は図のように通してください。



ケースは図のように取り付けます。



ケースの上カバーを外すときは手前に引っ張ってください。





## 目次（各部機構と応用編）

1	電池について	P.26
2	表示パネルとファインダー内情報について	P.28
3	ACレンズのAFモードのセットについて	P.37
4	手動ピント合わせ	P.40
5	ピントを合わせたいものが画面中央に ないとき(フォーカスロック撮影)	P.42
6	オートフォーカスの苦手な被写体	P.44
7	写したいものの背後に明るいものがあるとき	P.47
8	FD信号ピンを持たないレンズとアクセサリー	P.48
9	長時間露出撮影(バルブ)	P.49
10	ストロボ撮影(専用ストロボ以外)	P.50
11	リモートコントロール撮影	P.50
12	液晶表示パネルについて	P.51
13	主なアクセサリー(別売)	P.53
	手入れと保管	P.57
	アフターサービス	P.58
	カメラ主要性能表	P.59

# 各部機構と応用編

# 1. 電池について



キヤノンT80は電池を正しく入れてはじめて作動します。

次のようなときは、まず電池電圧を調べてからお使いください。

- 電池を交換したとき
  - 長期間カメラを使用しなかったとき
  - シャッターが切れなくなったとき
  - 寒冷地で撮影するとき
  - その他、大切な写真を撮るとき
- 
- T80はバッテリーチェックマークが点滅または無表示となっても、シャッターが切れれば写真は適正露出となります。

## 〈電池を交換するときは〉

電池は次の規格に相当するものをご使用ください。

単4形アルカリマンガン電池1.5V 4本

JIS LR03 (AM-4)

単4形マンガン電池1.5V 4本

JIS R03 (SUM-4)

- 電池は4本とも新品で同一銘柄の単4形電池を使用し、交換のときは4本同時に行ってください。
- 電池をカメラに入れるときは、カメラと電池の接点の汚れや指紋などをよく拭き取ってください。そのまま入れると接触不良や腐食の原因となることもあります。

#### 〈寒冷地で撮影するときは〉

- 電池性能は低温下（0℃以下）では非常に低下します。寒冷地で撮影の際は予備の電池を用意し、ポケットなどに入れて保温しながら交互にご使用ください。

#### 〈カメラを使用しないときは〉

- 長時間使用しないときは、電池を抜き取り保管してください。入れたままにしておくと電池の漏液により、故障することがありますのでご注意ください。
- 電池は使わなくても自然放電します。撮影の前には電池のチェックをするように心がけてください。

#### 撮影可能フィルム本数(アルカリマンガン電池使用)

温度 \ フィルム	24枚撮り	36枚撮り
常温( 20℃)	60本	40本
低温(-10℃)	5本	3本
低温(-20℃)	1本	1本

- マンガン電池使用の場合、撮影可能本数は少なくなります。

## 2. 表示パネルとファインダー内情報について

### 1. 表示パネル

このカメラは、撮影のための情報を表示パネルに液晶で表示します。

下の図は情報の全てを表示したもので、通常は必要な情報のみ表われ、このようには見えません。

ストロボ充電完了マーク

ノーマルプログラムモード

フローイングモード

フィルム感度

フィルム枚数

バルブ露出時間

セルフタイマー時間

実絞り A E

ISO 表示

フィルム在否確認マーク

シャッタースピード

合焦音セットマーク

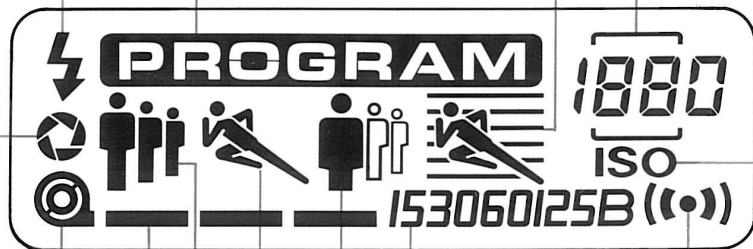
フィルム給送 /

バッテリーチェックマーク

シャローフォーカスモード

ストップアクションモード

ディープフォーカスモード





### ピクチャーセレクターとピクトグラフ(絵文字)

写真表現テクニックは大別すると、いくつかに分けることができます。

キャノンT80は、この表現テクニックをシンボル化して5つのピクトグラフとして表示パネルに盛り込みました。したがって、撮影にあたっては好みのピクトグラフをセットするだけで、これまで高度なテクニックを駆使してしか得られなかった写真を、簡単に得ることができます。

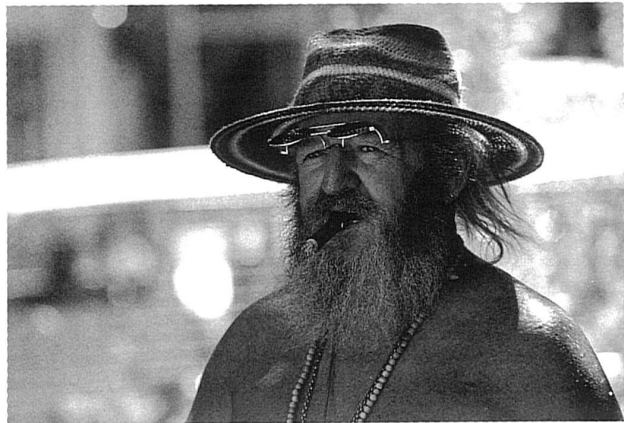
キャノンはこれを「ピクチャーセレクター」方式と呼びます。

### ピクトグラフのセット

ピクトグラフのセットは、撮影モード選択ボタンを押したまま、シフトレバーを押します。

■シフトレバーは押したままにしても、その都度押しでも構いません。押したままにすれば表示が循環します。また、シフトレバーは右または左のいずれに押ししても構いません。

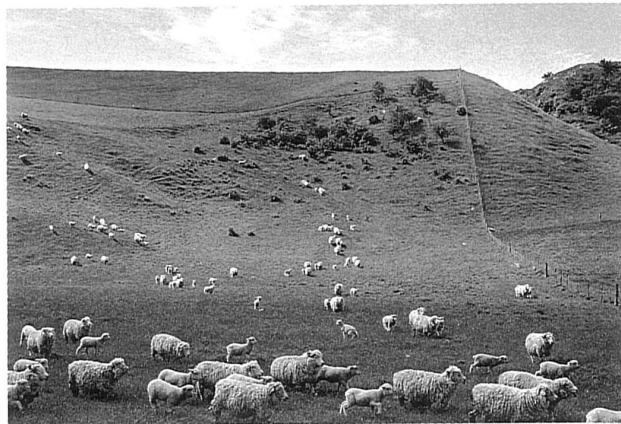
ピクトグラフの選び方 ピクトグラフは以下を目安として選んでください。



### 1. (シャローフォーカスモード)

写したいものだけをシャープに写して、その前景、背景をぼかしたいとき

- ① 人物ポートレート写真
- ② 感じたものを強調して写したいとき
- ③ 邪魔なものをはっきりと写したくないとき



### 2. (ディープフォーカスモード)

写したいものだけでなく、背景までシャープに写したいとき

- ① 建物、風景などを背景にした人物記念写真
- ② 風景写真などで近景から遠景までをシャープに写して、広がり表現したいとき



### 3. (ストップアクションモード)

動いているもののある一瞬を止めて、動きを表現したいとき

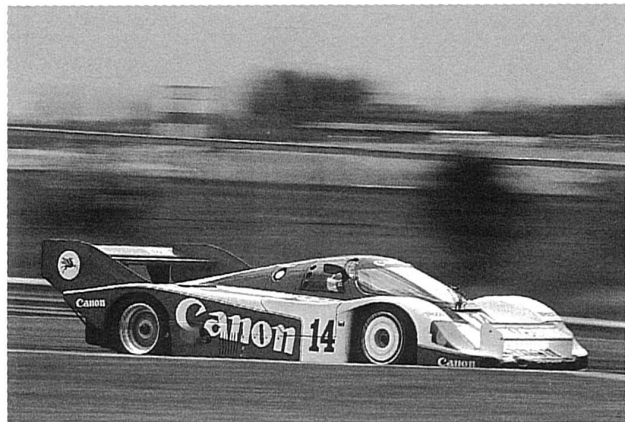
- ① スポーツ写真
- ② 動物写真
- ③ カーレース
- ④ 動いているものを止めたいとき
- ⑤ 手振れ写真を防ぎたいとき



### 4. (ノーマルプログラムモード) **PROGRAM**

特別な写真表現を必要としないとき

- ① 記念写真
- ② 気楽に撮りたいとき
- ③ どのモードが良いか分からないとき
- ④ カメラに不慣れな人



## 5. (フローイングモード)



動きを表現するとき

- ① 動いているものを止め背景をぶらして、動きを表現したいとき
- ② 動いているものも背景もぶらして、動きを表現したいとき
- ③ 動いているものだけをぶらして、背景をシャープに写したいとき

## 〈フローイングモードのシャッタースピードの選び方〉

フロー表示の下の数字はフィルムに像を写し止めている時間（シャッタースピード）を表し、15, 30, 60, 125は1/15秒, 1/30秒, 1/60秒, 1/125秒を意味します。そのセット方法は

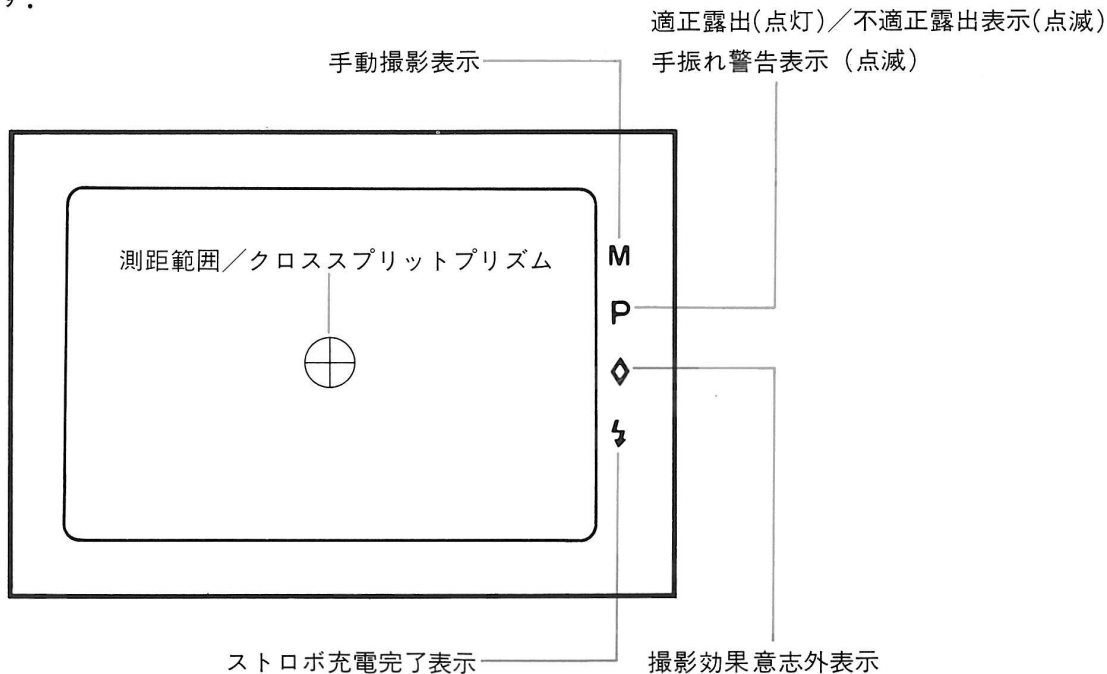
- 1) 撮影モード選択ボタンを押しながら、シフトレバーをスライドさせてフローイングモードにします。
- 2) シフトレバーだけで、シャッタースピードをセットします。セットするときは押し続けても、その都度押ししても構いません。

- フローイングモードの項 ①, ②の写真を撮るときは、カメラの構え方の基本を守ると同時に、腰から上を上下に揺れないよう回しながら、(被写体を追いつながら) シャッターボタンを押します。別冊「キヤノンT80, イメージハンティング」をご覧ください。
- ACレンズとFDレンズ以外は5つの撮影モードを選ぶことはできません。



## 2.ファインダー情報

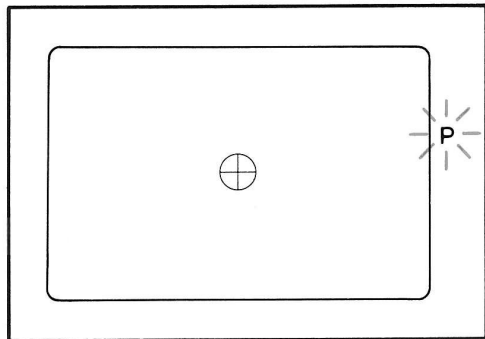
非常に明るく見易いファインダーで、必要な情報だけを視野外に表示します。下の図は情報の全てを表示したものです。



## 露出の警告マーク（Pの点滅）

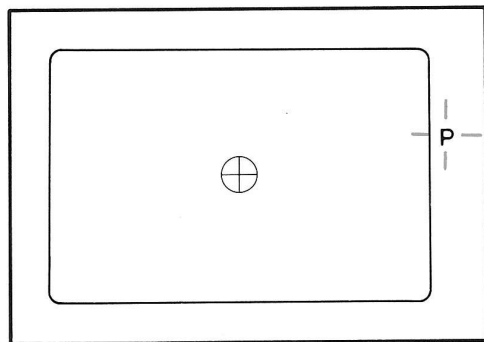
明る過ぎまたは暗過ぎて適正露出の写真が得られないとき、および手振れ写真となるときに、Pのマークが点滅します。点滅には3種類あります。

Pマークの点灯は適正露出です。

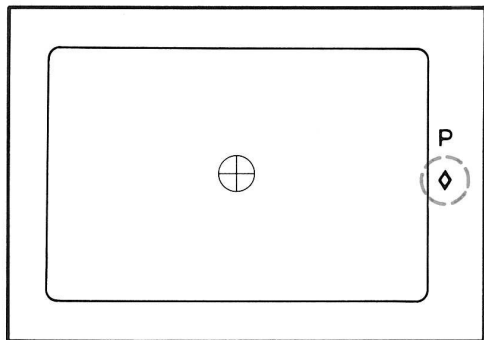


速い点滅：明る過ぎ、または暗過ぎるため、  
（8回/秒）撮影はできません。

明る過ぎるときはキヤノンNDフィルター、暗過ぎるときは専用ストロボ、キヤノンスピードライト277Tまたは244Tをご使用ください。



- ゆっくり点滅：手振れ写真となるので専用ストロボ（2回/秒）ボまたは三脚を使用して撮影してください。（シャッタースピードが1/30秒未満のとき点滅）
- （1回/秒）：手振れとなることもあるので、構え方に注意して撮影してください。（シャッタースピードが1/90未満-1/30秒のとき点滅）
- 特にAC75-200mm F4.5レンズなどのように焦点距離の長いレンズの場合は、この1回/秒の点滅にはご注意ください。

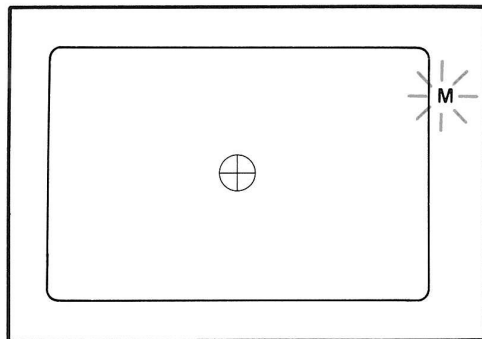


### 撮影効果 意志外表示 (◇マークの点灯)

あらかじめこんな写真を撮りたいと想定してピクトグラフをセットしますが、このマークが現れたときはその効果が薄いことを告げるマークです。しかし、写真は適正露出となりますので撮影して差し支えありません。(ただしPが速い点滅をしたときは不適正露出)

■フィルムに光が当たって像を結ぶことを露出といいます。

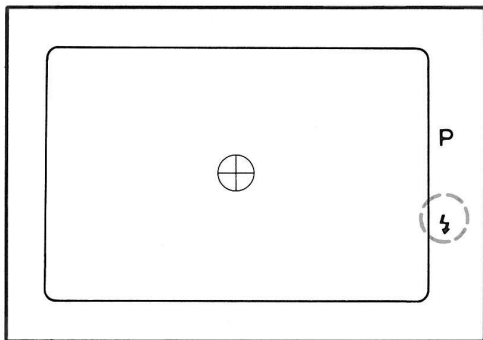
また人間が目を見たような自然な明るさに写ることを適正露出といい、それに対して黒っぽくまたは白っぽく写るのを不適正露出といいます。



### 手動露出表示 (Mマークの点滅)

露出が自動で行われないうちに現れる点滅表示マークです。次のときに表示されます。

- 1) F DレンズのAマーク解除時
- 2) ストロボのマニュアルモードセット時
- 3) バルブ撮影時 (P. 49 参照)



### ストロボ充電完了表示（⚡マーク）

専用ストロボ，キヤノンスピードライト277T，  
244T，またはキヤノンAシリーズストロボを使用  
したときに現れるマークです。

軽くシャッターボタンを押して点灯すれば，撮影  
OKです。

### 3. ACレンズのAFモードのセットについて

キヤノンACレンズは撮影目的、用途に合わせてAFモードを3通りに切り換えることができます。



#### AFモードの切り換え

AFモードを切り換えるときは、AFモードスイッチをスライドさせてください。

#### ONE SHOT (ワンショット) :

1. 通常撮影のときセット
2. フォーカスロック撮影のときセット (P. 42 参照)

一度ピントが合うとAF測距(自動ピント合わせ)は停止したままとなり、シャッターボタンから指を離した後、再び軽く押せばAF測距となります。

#### SERVO (サーボ) :

1. 動いているものを追いながら、ある一瞬を撮るときセット

被写体の動きに合わせて、ピント合わせが行われます。

■連続撮影のときのピントは、ロックされたままとなります。つまりレンズの距離目盛は、最初の一枚目の撮影状態に固定されたままとなります。

■レンズのAF測距の応答速度は、明るさなどの撮影条件によって変わり、暗くなるにつれて遅くなります。低温下では電池性能の低下等により、遅くなります。

#### MANUAL (マニュアル) :

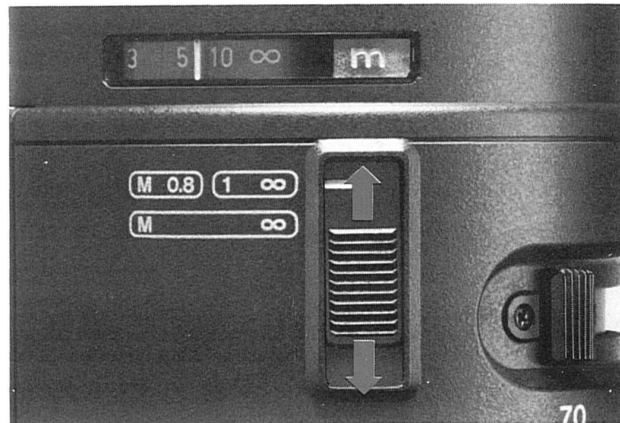
AF測距のできないときや苦手な被写体のときセット (P. 44 参照)

\*キヤノンA C50mmF1.8付きでお買い求めの方は、P.40 へお進みください。



### ズーミングについて

A C 35-70mm F 3.5-4.5は、ズーミング機構を内蔵していますので、撮りたいものを簡単に大きくしたり、小さくしたりすることができます。ズーミングするときは、ズーミングレバーを押し付けるようにして回します。



### A F 作動距離のセット

A F 作動距離範囲は、目的に合わせて切り換えてください。切り換えるときは、A F 作動距離スイッチをスライドさせるだけです。目的に合わせてご使用ください。

■ **M**  $\infty$  (マクロから $\infty$ ):

撮影したいものがどの距離に来るか予測できないときにセットします。通常はここにセットしてください。

■ **M** 0.8 (マクロから0.8):または

**I**  $\infty$  (1 m ~  $\infty$ )

撮影したいものがマクロ域かあるいは一般撮影距離範囲にあるかが、あらかじめわかっているときにセットします。マクロ撮影であれば、**M** 0.8位置、一般撮影であれば **I**  $\infty$  位置にセットします。作動距離範囲を小さくすることによって、ピントが合うまでの時間が短くなります。

**M**  $\infty$  から **M** 0.8 または **I**  $\infty$  のいずれかに切り換えるときはAF作動距離に合わせて、あらかじめレンズの距離目盛りをその距離範囲に手動セットしておいてください。例えば**M** 0.8にしたいときは距離目盛り窓にはMACROから0.8の間をセットしておきます。

■0.8から1 mの間で撮影したいときは、**M**  $\infty$  にセットしてください。

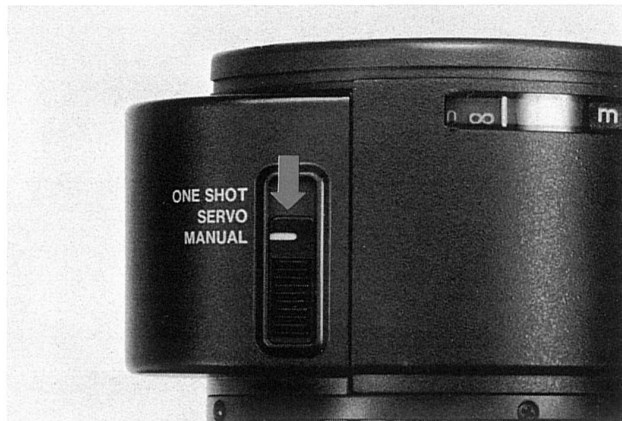


## マクロ撮影

このレンズは手軽に草花などの近接撮影を楽しむためのマクロ機構を内蔵しています。マクロ撮影時はAF作動距離範囲を**M** 0.8にセットします。

■最大倍率で写したいときは、まずAFモードをMANUALにセットし、距離リングをマクロ端（突き当り）にして、ズーミングレバーを70mmにセットします。次に軽くシャッターボタンを押して露出を確認し、自分の体をゆっくり前後させ、ピントの合ったところで撮影します。

## 4. 手動ピント合わせ



オートフォーカスの苦手な被写体撮影などでは手動ピント合わせをしてください。

1. レンズのAFモードスイッチをマニュアル(MANUAL)にセットします。

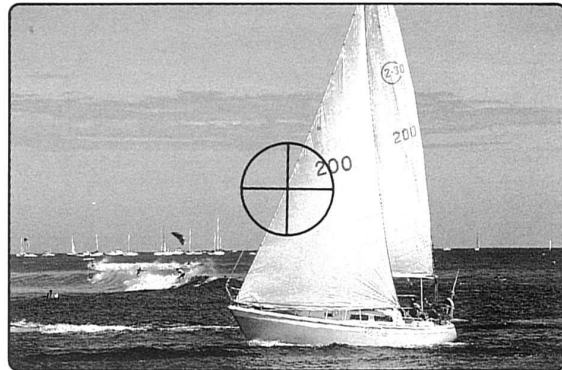
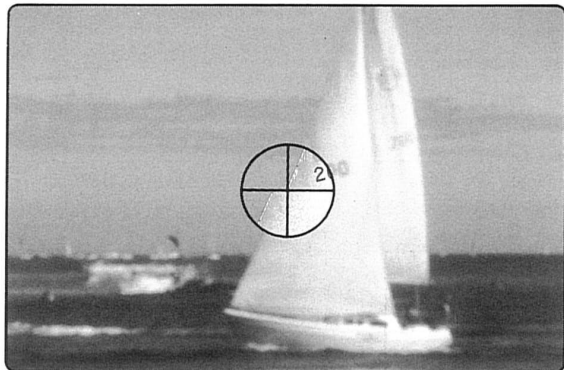
■FDレンズの場合もピント合わせは手動となります。その際ピントが合うと合焦音で知らせてくれますので、目安としてお使いください。



2. レンズの距離リングを回して、ファインダー内のクロスプリットプリズムで合わせます。



画面全体のぼけがなくなり、中央のクロススプリットプリズムの上下左右分割像が1つに見えればピントの合った状態です。



## 5. ピントを合わせたいものが画面中央にないとき(フォーカスロック撮影)

ピントを合わせたいものが画面中央にないとき、例えば(A)のような構図(43ページ)で写真を撮りたいとき、そのまま撮ると背景にピントが合い、被写体がぼけてしまいます。このようなときは次のようにしてください。

1. A CレンズのA Fスイッチをワンショット(ONE SHOT)にセットします。
2. 被写体にカメラを向け(B)、軽くシャッターボタンを押して距離を測ります。押したままにすればレンズの距離リングは固定されたままとなります。
3. 構図を決め直して(A)、静かにシャッターボタンを押します。

- ピントを合わせたいものにカメラを向け、A F測距した後に再び構図を決め直して撮影する前記の方法を「フォーカスロック撮影」といいます。
- フォーカスロック撮影は、オートフォーカスの苦手な被写体撮影のときにも利用できます。



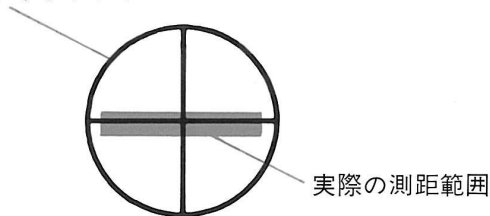


(B)

(A)

## ファインダー視野と実際のAF測距視野

クロススプリットプリズム



キヤノンT80は沢山の電子の目からなる「CCDラインセンサー」を採用しています。CCDラインセンサーは測距範囲内に図のように横一列に並んでいます。(正確にはこの範囲が測距範囲)

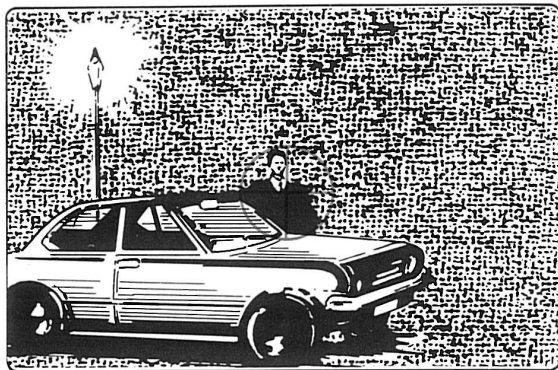
そして、ひとつひとつの電子の目が、被写体の微妙な明暗差をキャッチして正確なオートフォーカス撮影を可能にしています。

しかし、いかに優れた電子の目も万能ではありません。被写体の撮影条件によっては、苦手なものもあります。

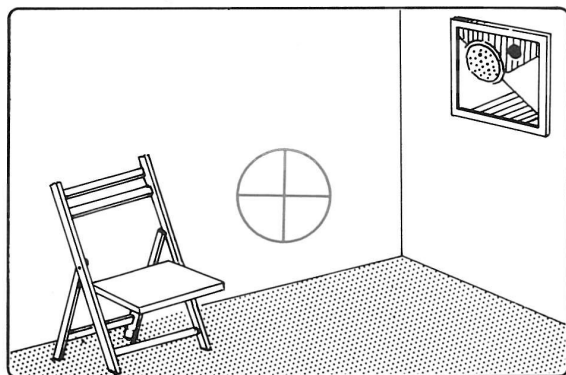
次のようなものが測距部にかかったときは、オートフォーカスによるピント合わせができないこと、または誤測距することがあります。

## 1) AF測距のできないもの

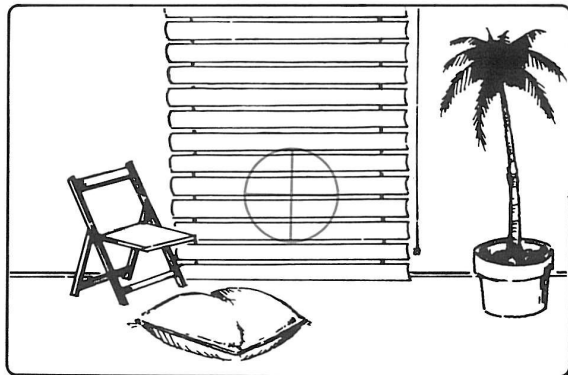
A) 非常に暗い所の被写体 (夜景, 暗い室内)



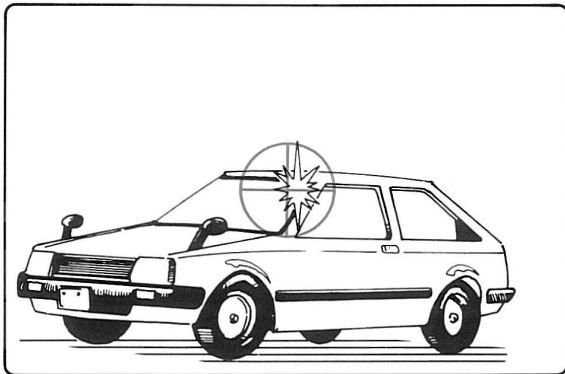
B) 明暗差の低い被写体 (一色の壁面, もやのかかった風景)



C) 縦線のない被写体 (ブラインド)

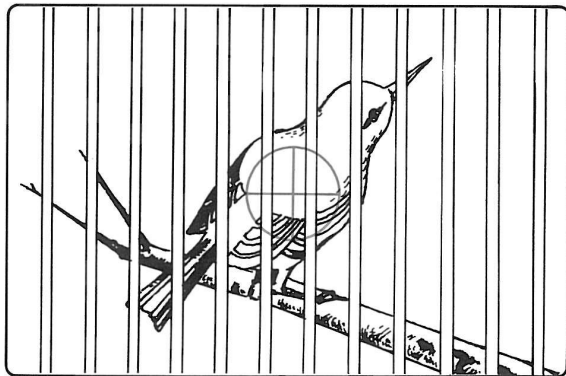


D) 極端に反射の強い被写体

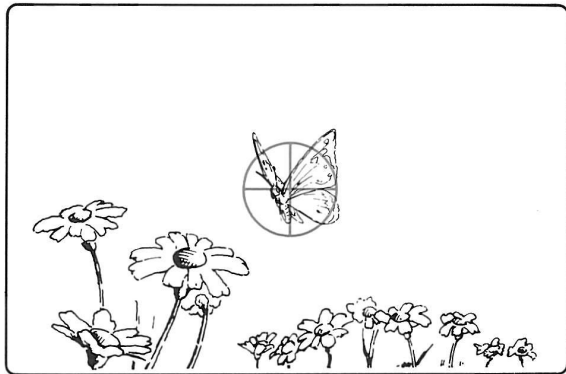


2) 誤測距するもの

E) 遠くのものと同近のものが測距部にかかったとき (動物と鑑)



F) 安定測距のできない動くもの



先に述べたAF測距のできないもの、誤測距するものは、次のいずれかでピントを合わせることができます。

■ 被写体とほぼ同じ距離にある、測距できるのでAF測距をし、構図を決め直して撮影する。  
（フォーカスロック撮影）

■ レンズをMANUALにして、ファインダーのクロススプリットプリズムで合わせる。

■ カメラを縦に構えてAF測距をし、構図を決め直して撮影する。（フォーカスロック撮影）

### 〈ピント合わせのコツ〉

T80はコントラストを利用してピントを合わせます。したがって測距をするときは、コントラストのあるものを測距範囲の中央に入れるようにします。例えば洋服の襟、顔でいえば目、口などコントラストの高いところに合わせます。この方法は測距条件の悪くなる薄暗い所などで有効です。

またAF測距のできない暗いところでは、ライタール、マッチなどの炎を利用して測距（フォーカスロック）するのも1つの方法です。

■ 撮影に夢中になると、ピントを合わせたいものと測距範囲とが、わずかにずれていることに気づかずに撮影してしまうことがあります。したがってピントは合焦音と同時に、目でも確認するようにしてください。

■ 直線偏光フィルターを使用したときは手動測距をしてください。

## 7. 写したいものの背後に明るいものがあるとき

このカメラの測光方式は、特に画面中央部を重点的に測光し、被写体周囲の影響を抑える方式を採用しています。これを中央重点平均測光方式といいます。しかし、写したいものとその背景とで明るさに大きな差があるときは、写したいものが不鮮明に写ります。（背後が明るいとき）そのようなときは露出補正スイッチを押しながら撮影してください。

■補正量は+1.5段です。



## 8. FD信号ピンを持たないレンズとアクセサリー

### 実絞りAE撮影 (Pマーク)

FD信号ピンを持たないレンズ (FLレンズ等)、および接写・拡大撮影でFDレンズとベローズ、中間チューブを使用するときは、ピクチャーセクターに実絞りAEマーク (Pマーク) をセットしてください。セット方法は通常のピクトグラフのセットと同じです。



- 露出警告はPマークの指示に従ってください。
- FD信号ピンを持つレンズ、アクセサリーは、単独では実絞りマークにセットできません。
- ACレンズはベローズ等の中間チューブと併用できません。



## 9. 長時間露出撮影(バルブ)

A C以外のレンズを使用したときは、夜景や天体撮影時に2秒以上の長時間露出撮影(バルブ)ができます。

- 1) レンズのAマークを外して、絞りを手動セットします。
- 2) 撮影モード選択スイッチを押しながら、シフトレバーをスライドさせてB(バルブ)にセットします。
- 3) 撮影します。

シャッターが開いたままとなり長時間露出撮影となります。

- 長時間露出撮影時はフィルムカウンター表示部に露出時間が現れます。ただし表示は60秒までです。
- 長時間露出撮影時はリモートスイッチ60T3を併用します。リモートスイッチ60T3はカメラのリモートコントロールジャックに取り付けます。(P. 53 参照)
- A Cレンズは絞りリングの手動セットができないため、長時間露出撮影はできません。



## 10. ストロボ撮影(専用ストロボ以外)

専用ストロボ・キヤノンスピードライト277T, 244Tを使用すれば日中撮影同様の簡単操作で、完全自動調光撮影ができますが、他のストロボを使用するときは次のようになります。

〈キヤノンAシリーズまたは577G, 533Gを使うとき〉

1. シャッタースピードは自動セット(1/90秒)
2. ストロボに調光絞り値を選定して手動セットします。
3. ファインダー内に☛とPマークが点灯すれば撮影OKです。

〈一般の汎用調光ストロボ〉

1. レンズとストロボの両方に、調光絞り値を選定し手動セットします。
2. ピクチャーセクターにシャッタースピードの1/60秒をセットします。セットするときは撮影モード選択ボタンを押しながら、シフトレバーを押して行います。(P.32参照)
3. ストロボのパイロットランプの点灯を確認した後に撮影します。

■一般の汎用調光ストロボとACレンズの併用はできません。

## 11. リモートコントロール撮影

リモートコントロール撮影をするときは、カメラ側面のリモートコントロールジャックにリモコン用アクセサリを接続してください。アクセサリとしてワイヤレスコントローラーLC-1、およびリモートスイッチ60T3があります。リモートスイッチ60T3は接写および望遠撮影などの手振れ防止用スイッチだけでなく、エクステンションコード1000T3と併用して、遠く離れて撮影ができます。

■リモートコントロール撮影時は接眼部にファインダーカバーを取り付けてください。

## 12. 液晶表示パネルについて

カメラの表示パネルには液晶を使用しています。液晶はその性質上、通常の使用で5年程度経過すると表示が薄くなり読みにくくなる場合があります。その場合は最寄りのキヤノンサービスステーションで液晶の交換をご用命ください。（有料）なお、液晶の特性で低温下で表示反応がやや遅くなったり、60℃ぐらいの高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常表示になります。

### 表示記憶用のバックアップ電池について

カメラ保管の際にフィルムを入れたままで、メイン電源である単4電池を抜き取ることがありますが、電池を抜き取るとフィルム感度や枚数を記憶するために、カメラに組み込まれているバックアップ電池が働きます。（電池寿命約5年）バックアップ電池が消耗したときは、表示パネルでISO100が点滅（2回/秒）しますので、キヤノンサービスステーションで速やかに交換してください。（有料）なお、バックアップ電池の消耗したカメラでも電圧の十分にある単4電池を入れれば正常に撮影を行うことができます。但し、フィルム感度は新たにセットし直してください。



## 13. 主なアクセサリ（別売）



### キヤノンスピードライト277T

夜間や暗い室内ばかりでなく、日中戸外撮影の補助光としても効果があります。たとえば夕陽を背景とした人物の逆光撮影などの際に使用すれば、被写体が暗くならず、また背景もあまり露出オーバーとなりませんので、いわば日中シンクロ的なフラッシュ撮影ができます。

キヤノンスピードライト277Tを絞り値セットモードで使用すれば、被写界深度を考慮したフラッシュ撮影もできます。



### キヤノンリモートスイッチ60T3

カメラのリモートコントロールジャックに取り付けて使用するリリーススイッチです。エクステンションコード1000T3と併用できます。

取り付けは60T3のコード端子の赤点とカメラのジャックの赤点を合わせ締め付けねじを回して取り付けます。

スイッチを押すとAF測距とリリースが行われ、更にスライドさせればロック状態となります。



## キヤノンコマンドバック80

コマンドバック80は多くの特長を備えたT80専用の交換用裏蓋です。データを写し込むだけでなく名称“コマンド”（命令）に示されるようにT80を制御する機能をも持つ新しいタイプのデータバックです。

次のような機能をクォーツ制御で行います。

### <データ機能>

#### 4種類の自動データ写し込み

1. 2029年までのオートデート写し込み  
(大小の月、うるう年の自動修正)
2. 24時間表示で、日・時・分の写し込み
3. 6桁の数値、A～Fまでのアルファベット文字の写し込み
4. フィルム枚数数値（4桁）の写し込み

### <タイマー機能>

#### 時間制御と撮影枚数制御

1. セルフタイマー撮影（指定時間後に作動）
2. インターバル撮影（一定時間の間隔で作動）
3. 長時間露出撮影（カメラはbulbセットで露光時間制御）
4. 撮影枚数制御（指定枚数の撮影後に自動停止）  
1秒～23時間59分59秒の間の任意のセット時間でコントロールします。

- データ写し込みと併用することもできます。また、タイマー機能の1.~4.を組み合わせることで任意のプログラムを組むことができますので、自動撮影の領域を飛躍的に拡大させることができます。
- タイマー撮影時はAF撮影はできません。



### キヤノンワイヤレスコントローラLC-1

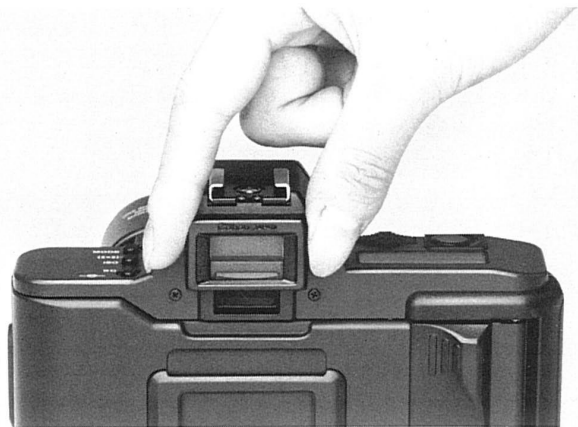
赤外線利用のリモコン撮影装置です。コードがありませんので、操作性、機動性に優れ、スポーツ、動物、その他の撮影に威力を発揮します。送信機と受信機のセット構成で、受信機を取り付ければ、1台の送信機で何台のカメラでも同時にコントロールできます。（リモートスイッチアダプターT3併用）

- AFコントロール撮影はできません。



### レンズフード

A C 50mm F 1.8 および A C 35-70mm F 3.5-4.5用として、フード（B W-66）が用意されていますのでご利用ください。フードは有害光線のカットに欠かせないものです。



### 視度補正レンズとアイカップT

視度補正レンズを取り付ければ、近視、遠視の方でも眼鏡なしで撮影することができます。カメラ本体の視度は-1ジオプターですが、交換用視度補正レンズとして10種あります。

視度補正レンズはアイカップTを外して取り付けます。アイカップTを外すときは上に抜き取ります。視度補正レンズは実際にカメラに取り付けてのぞいて確かめてから選んでください。なお視度補正レンズを付けるとアイカップTは使えません。



## 手入れ

どんなに優れたカメラでも適切な手入れをしなければ、その性能を十分に発揮できません。常に手入れをするように心がけてください。

手入れ用具：ブロワーブラシ、クリーナー液、クリーニングペーパー、シリコンクロス、等

### ①レンズとファインダー接眼部

ブロワーブラシで砂やほこりを吹き払い、クリーナー液を含ませたクリーニングペーパーで軽く拭き取ってください。

### ②カメラの反射ミラー、フォーカシングスクリーン

ブロワーブラシで吹き払うだけにしてください。どうしても拭かなければならないときは、最寄りのキャノンカメラサービスステーションにお持ちください。

### ③フィルム室内

フィルムかすなどが付きやすいので、常にゴミをブロワーブラシで吹き払うようにしてください。ゴミや砂があるとフィルムにきずをつける原因となります。

### ④レール面や圧着板

クリーナー液とクリーニングペーパーを使用して拭いてください。

- シャッター幕には絶対に手を触れないようご注意ください。
- 海辺で使用した後は、カメラに塩分が付いていますので特によく拭いてください。
- エアポンプタイプのブロワーの使用はおすすめできません。もし使用する際は、シャッター幕から20cm以上離してお使いください。

## 空港におけるX線検査にご注意

空港においてX線による手荷物検査を行っていますが、X線の強度によっては、カメラの中のフィルムが感光することもありますので、検査官にフィルムの入ったカメラであることを伝えて、X線の照射を避けてください。

## 保管

カメラケースを外し、電池を抜き取って、湿気やほこりのないところに保管してください。また、カメラは長時間使用しないでおくとかびや故障の原因となることがありますので、ときどきシャッターを切るようにしてください。保管する場合、特に次のような場所はさけてください。

1) 車のトランクやリヤウインドーなどは高温になり、故障の原因となることがあるためさけてください。

2) 実験室などのような薬品を扱う場所はサビ・腐食などの原因になるためさけてください。同様にタンスの中などもさけてください。

長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。

長期間使用しなかった後や、重要な撮影の前には、各部の作動をご自身でチェックしてからご使用ください。

## アフターサービス

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛りはお客様にご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、10年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店または、裏表紙記載の当社サービス機関にお問い合わせください。

\* 修理品をご送付の場合は、見本のフィルムを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

# カメラ主要性能表

型 式：35mmフォーカルプレーンシャッター  
——一眼レフレックス全自動カメラ

画 面 サ イ ズ：24×36mm


使 用 レ ン ズ：キヤノンAC，FDレンズ群


レ ン ズ マ ウ ン ト：キヤノンマウント（信号伝達機構，AC方式）

フ ァ イ ン ダ ー：ペンタプリズム使用アイレベル式

視 野 率：上下92%，左右93%

倍 率：0.83倍（50mm ∞状態）

ファインダー情報：4点LED表示（M、P、◇、)

- ①M……露出マニュアル表示（絞り，バルブ，ストロボ手動セット）
- ②P……点灯（適正露出）点滅（警告）  
…1回／秒（1／90未満—1／30秒），2回／秒（1／30未満—2秒），8回／秒（不適正露出）
- ③◇……撮影効果意志外表示
- ④……ストロボ充電完了表示

測 光 方 式：中央重点平均測光

A E 制 御 方 式：ピクチャーセクター方式によるマルチプログラムAE（ACレンズ，FDレンズで），FD信号ピンを持たないレンズで実絞りAE

測 光 連 動 範 囲：EV 1—19（50mm F1.4使用，ISO 100）

使用フィルム感度：ISO 12／12°—ISO 1600／33°

露 出 補 正：露出補正ボタンにより，+1.5段

A F 測 距 方 式：CCDによるTTL鮮鋭度検出方式

A F 作 動：ACレンズにより可能

A F モ ー ド：切り換え可能（ONE SHOT，SERVO，MANUAL）連写時はAFロックとなる

A F 合 焦 表 示：電子ブザー音による，合焦音消去可能

A F 測 距 輝 度 範 囲：AC 50mm F1.8（EV 4—18）  
（ISO 100／21°）AC 35—70mm F3.5—4.5（EV 5—19）AC 75—200mm F4.5（EV 5—19）

シャッタースピード : (オート) 2 - 1 / 1,000秒  
X (自動セット 1 / 90秒)  
(手動セット 1 / 60秒)  
B (バルブ)

セルフタイマー : 電子制御式, 時限約10秒 電子音告知

フィルム装てん : 自動装てん, フィルムカウンター  
"1" まで自動空送り

巻き上げ : 内蔵モーターによる自動巻き上げ  
方式, 巻き上げ時間約0.7秒, 連続  
撮影可能

フィルム終了警告 : 電子ブザー音および液晶表示

フィルム巻き戻し : 内蔵モーターによる巻き戻し

電 源 : 単4型アルカリマンガン電池4本

バッテリーチェック : バッテリーチェックボタンを押し  
表示パネルで3段階表示

フラッシュ接点 : X接点 アクセサリーシュー部に  
直結接点あり

フラッシュオート : ①プログラムフラッシュ A E ……  
277 T, 244 T 使用プリ発光 (近赤  
外光) にて, 撮影条件に応じた最  
適絞り値を自動セット, 同時にシャ  
ッタースピード も自動セット  
(1 / 90秒)

②フラッシュ A E ……キヤノン専  
用スピードライト使用時シャッタ  
ースピードと設定調光絞り値を自  
動セット

リモートコントロール : 可能, 三端子リモートコントロー  
ル接点あり

裏 蓋 : 着脱可能, キヤノンコマンドバック  
80と交換可能

大きさ・重量 : 141×102×54.7mm 555g (ボディ  
のみ)

※都合により外観および仕様の一部を予告なく変更する  
ことがあります。

# レンズ主要性能表

	A C 50mm F 1.8	A C 35-70mm F 3.5-4.5
画面サイズ	24×36mm	24×36mm
焦点距離	50mm	35-70mm
明るさ	F 1.8	F 3.5-4.5
レンズ構成	4群6枚	8群9枚
コーティング	スペクトラコーティング	スーパースペクトラコーティング
画角 水平	40°	54°~29°
垂直	27°	38°~19° 30'
対角線	46°	63°~34°
焦点調節	自動およびマニュアルによる直進ヘリコイド式	自動およびマニュアルによる前群回転前進式
A F 作動距離範囲	0.6m~∞	Macro~∞ A F 作動距離スイッチにより作動距離範囲を, Macro~∞, またはMacro~0.8m, 1m~∞にセット可能
ズーミング	なし	回転式
ズーミング距離目盛	なし	35 50 70 mm
マクロ機構	なし	前群回転繰り出しによる全域マクロ 最至近距離(フィルム面より) 39cm
マクロ画界	なし	35mm位置で0.11倍(218×327mm) 70mm位置で0.2倍(120×180mm)
フィルター径	52mm	52mm
フード	B W-66	BW-66
大きさ	74×66×47.5 mm	76×68×68 mm
重量	210 g	285 g

## 各部名称



●都合により外観および仕様の一部を予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。



# Canon

キヤノン株式会社

キヤノン販売株式会社

〒108 東京都港区三田3-11-28 カメラ相談室 (03) 455-9353

◎サービスステーション・営業所

札幌	台	〒060	札幌市中央区北三條西4-1 (第一生命ビル)	☎(011)	231-1353
仙台	台	〒980	仙台市一番町1-1-30 (やまと生命仙台ビル)	☎(0222)	66-4151
山形	山	〒963	福島県郡山市開成2-38-13	☎(0249)	23-5618
新潟	潟	〒950	新潟市東大通り1-4-1 (マルタケビル)	☎(0252)	43-2111
新銀座	座	〒104	東京都中央区銀座5-9-9	☎(03)	573-7834
新宿	宿	〒160	東京都新宿区西新宿2-6-1 (住友三角ビル地下1階)	☎(03)	348-4725
横浜	浜	〒221	横浜市神奈川区鶴屋町3-30-4 (安田生命横浜西口ビル)	☎(045)	312-0211
大宮	宮	〒330	大宮市大成町2-273	☎(0486)	66-3930
静岡	岡	〒420	静岡市鷹匠2-7-2 (静米会館)	☎(0542)	55-2241
名古屋	屋	〒450	名古屋市中村区名駅3-21-7 (三交ビル)	☎(052)	563-6822
梅田	田	〒530	大阪市北区梅田1-8-17 (第一生命ビル)	☎(06)	341-9335
京都	都	〒604	京都市中京区東洞院通御池下ル世屋町435 (京都御池第一生命ビル)	☎(075)	241-0216
高松	松	〒921	金沢市玉鉾2-266	☎(0762)	91-1215
岡山	山	〒760	高松市番町3-3-17 (第一謀機ビル)	☎(0878)	33-2933
広島	山	〒700	岡山市中山下1-9-40 (新岡山山ビル)	☎(0862)	22-8228
福岡	島	〒730	広島市中区小町2-30 (第二有楽ビル)	☎(082)	245-7791
福沖	岡	〒812	福岡市博多区博多駅前4-20-23 (セントラルビル)	☎(092)	411-4172
那覇	縄	〒900	那覇市泊1-2-2	☎(0988)	67-2106

◎営業所

青森	森	〒030	青森市大字浦町字奥野351-7 (東和ビル)	☎(0177)	75-1666
盛岡	岡	〒020-01	盛岡市上堂3-2-15 (工藤ビル)	☎(0196)	46-8710
松本	本	〒390	松本市双葉町10-22 (双葉町ビル)	☎(0263)	26-5549
千葉	葉	〒280	千葉市末広2-13-2	☎(0472)	61-5121
大分	分	〒870	大分市城崎町1-3-31 (富士火災大分ビル)	☎(0975)	37-4117
鹿児島	島	〒892	鹿児島市山之口町3-22 (住友生命鹿児島ビル)	☎(0992)	24-3141

◎サービスセンター

東京	京	〒108	東京都港区港南2-13-29	☎(03)	450-2731
大阪	阪	〒540	大阪市東区森の宮中央2-10-9	☎(06)	941-1076

◎休業のご案内

新宿(第3木曜日)銀座・梅田(日曜日・祝日)その他(土・日曜日・祝日)